桜並木

題字：中根　葉子様
コスモスガーデン桜の里入居者様

通所介護（デイサービス）と言えば、「レクリエーションばかりしているところ」というイメージを持っておられる方もいらっしゃるのではないでしょうか？デイサービス・コスモスでは、レクリエーションはもちろん行っていますがご利用者様の身体機能を向上させるべく、さまざまな訓練も行っています。棒を持っての体操、数字を足で踏む運動、踏み台を上り下りしたり、お箸を使った訓練などなど。先日は、衣料品店まで外出し、買い物もしてきました。買い物は「歩く」、商品を取るために「手を伸ばす」、商品を「探す」、レジで精算する際には「計算」し、「硬貨を指先の細かい動作で取り出す」など身体の様々な機能を使った行動です。「ついつい買いすぎちゃうのよ」と言った声もありますが…。これからも「楽しい場所」「元気になれる場所」と皆様におっしゃっていただけるよう、『活き、生き、行きがいづくり』の理念のもと、行く甲斐のある事業所を目指し、スタッフ一同ガンバって参ります。

桜並木
第53号
令和3年8月

医療法人
秋桜会

〒851-2211
長崎市京泊3丁目30番3号
TEL　095-850-6866
FAX　095-850-4888
WEB　www.cosmos-garden.com
facebook もご覧ください

公式サイトへ
QR コードで
簡単アクセス
cosmos-garden

慣れた生活環境での訓練を

訪問リハビリテーションのご紹介

コスモスガーデン桜の里

コスモスガーデン桜の里では『施設入所』、『通所リハビリテーション』のほかに**『訪問リハビリテーション』**というサービスを実施しております。通所リハビリテーションと違うのは、**ご自宅に訪問して訓練を行うので、自宅内の生活環境に添った訓練ができる、ご本人が慣れた環境でリラックスして訓練ができる**という点です。具体的には、ご自宅の環境に合わせて生活が少しでも改善できるように、健康管理やご利用者様の状態に応じた身体機能向上、維持のための訓練、生活環境の整備ためのアドバイス、適切な福祉用具の提案、介助方法の指導や助言などを行います。

写真は、介護施設入所後ご自宅に戻られたご利用者様です。
当初は通所サービス利用も検討されていましたが、集団の場がちょっと苦手ということで訪問リハビリテーションをご利用されることになりました。屋外の歩行訓練や階段昇降の訓練、計算問題に取り組んでいただいています。ご家族様も定期的に外出の機会を作ってくださっています。現在まで入院されることなく元気に過ごされておられ、担当するスタッフも「これからもご自宅での生活が続けていけるように支援させていただきます」と思っております。

五色の短冊ではなく、五色の提灯

夏祭りの雰囲気づくり

デイケア新港

梅雨が明けたら夏本番。毎年記録的な気温のニュースを耳にしますが今年はどうなることやら…。熱中症予防のために「熱中症警戒アラート」を気象庁と環境省が全国を対象として今年４月から発表しています。皆さんも十分にご注意くださいね。

さてさて、日本の夏の風物詩といえばお祭り！盆踊りなど身近な場所で行われるものから、京都の「祇園祭」、徳島の「阿波おどり」、青森の「ねぶた祭」など有名なお祭りが多くありますが、デイケア新港でも夏祭りの開催が決定！もちろん無観客ではなく、ご利用者様と一緒に。

７月上旬、開催に向けた準備を開始。ご利用者様と一緒に夏祭り用の飾りを作成しました。五色の短冊ならぬ、五色の提灯飾り。色紙を切って、貼って、くっつけて。手が動かしにくくなったご利用者様にもできる範囲で制作に参加していただきました。最後に紐を取り付けたら完成！本番の夏祭りが楽しみになってきましたね！その時のご様子はまたの機会にご報告いたします。

グループホームのある日

7 月の行事と言えば七夕。笹に願い事を書いた五色の短冊を吊るす七夕飾り（サイズは小さめですが）をグループホーム新港 2 階でも作りました。短冊に書く願いは何にしましょう？甘いものがお好きなので、「甘いものを食べたい」にしましょうか？あら、そういえば 7 月はお誕生月ではありませんか！お誕生日会をせんばですね！さっそくプレゼントを購入。七夕飾りの前で記念撮影をさせてください。大好きな甘いものも準備しましたよ。もちろん誕生日ケーキです。おやおや、いつもの食事よりも食べるペースが早くないですか？笑顔のなか皆様と一緒においしくいただきました。

新型ウイルス感染症予防のため、面会制限をさせていただいており、天の川を隔てて会うことができなくなった織姫と彦星のように、ご家族とも会えない日々が続いています。七夕には間に合いませんでしたが、面会制限解除となる日もきっとやってくるハズ…。

短冊に書いた願いは何でしょう？

グループホーム新港２階

久しぶりの外出です

グループホームコスモス２

新型コロナウイルス感染症。収束することを願うばかりです。治療薬が開発されインフルエンザと同じように扱われる病気となる日がきっとやってくるハズ。それまでは、継続して感染予防に努めなければなりません。

これまでグループホームにご入居中の皆様にも感染予防のため、外出を控えていただいておりましたが、5 月末から入居者様とスタッフに対してのワクチン接種が始まり、6 月には全員のワクチン２回接種が終了。「そろそろ、外出してもいいのかも…」とグループホームコスモス 2 のスタッフは入居者様とのドライブを企画。幾らワクチンを 2 回接種したからとはいえ、人が混み合う場所には行けません。ならばここはいつもの『道の駅 夕陽が丘そとめ』で。雄大な角力灘が一望できるスポットなので、海を見ればきっと自粛期間中に抑え込んでいた心も開放されるはず。さぁ到着！あらら、残念。あいにくの曇り空。

でも風が心地よいですね。せっかくなので、ついでに紫陽花を見に行きましょうか？「どこに咲いているかな～」と車を運転しながら探します。長崎市総合運動公園（かきどまり）近くの道端でようやく発見。記念写真を撮らせていただきました。入居者様からは「久しぶりに外に出た。気持ちよかった～」と喜びの声。窮屈な生活をさせてしまって本当に申し訳ありません。これからそろり　そろり　とお出かけしていきましょうね。

連載小説

「僕の暗い青春」

作者：井下長治

※このお話は、フィクション？です

前回までのあらすじ　かぼちゃ（昭一）がバイクを買った。「ちきしょう、かぼちゃがバイク持っとる。」羨ましいけど、コイツには悟られたくない。興味なさそうな振りをしながら、カボチャを強引に説得し、運転させてもらえることになった。しかし、ボクは運転免許を持っていなかった。日曜日の公園でかぼちゃと待ち合わせ、さっそくバイクを借りて走り出したが、４～５分ほど走ると、交番の警官が「停車せよ」と手をあげて合図してきた。ボクは無視を決め込んだのだが、ミスターオクレのようなお巡りさんは笛を吹きながらボクを追跡し始めたのだった。

▼追いすがるミスターオクレのカブ号がフェンダーミラーの中に入って来るや否やスロットルを絞り上げる。125cc のバイクは大学病院から天主堂へと向かう坂道を唸りながら駆け上がった。カブ号もオクレが前のめりになりながら必死にくらいついてくる。振り切るために途中で文化会館の方へ向かったが、カブ号は次第に距離を開けられながらもまだ追ってくる。このまま大通りに出てしまうと衆目の的となり非常にまずい結果を招いてしまいそうだと思い、文化会館横の駐車場にバイクを止めた。ボクが逃走を諦めたと思ったのかオクレはカブ号のスピードを落とし悠然と近づいてきた。

▼こちらはまだ逃走中のため、カブ号に追われないよう原爆公園に通じる階段を駆け下りた。慌てたオクレもバイクを降りて走り出す。ボクは一気に２０数段駆け下り振り返った。オクレの姿は見えない。『しめた！』咄嗟にボクは階段横、芝の斜面地に入り灌木に身を隠しつつ駐車場へと駆け上がる。身を伏せながらオクレの姿を探すと一つ下の踊り場でキョロキョロと下方を探している。今がチャンスとばかりに急に立ち上がろうと焦ったのがまずかった。足場の砂利がザザっと音を立てた。振り返るオクレ。フルフェイスのヘルメット越しに視線がぶつかった。またもや追いかけっこが始まる。

▼ボクは中華料理屋の角を曲がり裏通りへ逃げ込んだ。「待てぇ～」と叫びながら追う警官オクレ。逃げながら思う『こういう状況で待てと言われて待つ人間はおらんやろう、ソイとになんしがアイは待てって言うとやろうか。止まらんと撃つぞとか言えんとかワイは。走っとも遅かくせ。』

▼裏通りの十字路を左に曲がり３軒目に門構えのある家が見えた。よし！あそこに隠れてやり過ごそう。何の躊躇もなく門の中に入り植木の間に身を隠し追手の足音に神経を集中した。刹那背後からの視線を感じ、振り向くと二十歳前後のお姉さんがうちの中からこちらを見ている。ここで騒ぎ立てられたら終わりだ。ボクは両手で拝み、立てた人差し指を口の辺りにあてた。彼女がコックリ頷くのと時を同じくして前の通りからのバタバタというオクレの足音が遠ざかって行った。ほんの１～２分の沈黙の後軽く会釈して立ち去ろうとしたボクを「今出たらだめよ」お姉さんが制止した。塀の向こう側からパタッパタと厚底ブーツの足音が通り過ぎてゆく。玄関から出てきたお姉さんは門柱から通りに顔だけ出し、オクレが向かった方を見ながら「もうヨカごたる」呟くように言った。お礼の言葉もそこそこに、ボクは昭一が待つ公園へ急いだ。

▼『あんポリ公は多分置いてきたバイクを調べよるやろ。アイのバイクて判ったらオイが乗っとったてすぐばるるバイ。どがんかならんモンかな～。』あれこれと思案しながら歩いていると前方から「オウ、元気や？」と手を挙げながら笑顔の少年が近づいて来る。（つづく）